

治安改善により ビジネス機会が 拡大するコロンビア

一般社団法人 日本経済団体連合会 [副会長]
兼 日本コロンビア経済委員会 [委員長]
三菱商事株式会社 [取締役会長]

小島 順彦

Yorihiko Kojima



2004年に経団連日本コロンビア経済委員会の委員長に就任して以来、何度もコロンビアに足を運び、大統領以下、政府要人や民間トップと直接対話をしてきた。力強い経済成長、治安改善による投資機会の拡大、太平洋同盟への積極的関与、OECDやAPEC加盟に向けた動きなど、コロンビアの躍進はめざましい。

特に、ウリベ前大統領、そしてサントス現大統領の2代にわたる断固としたゲリラ掃討作戦が奏功し、ここ10年間の大幅な治安改善には目を見張るものがある。そうした改善を受け、今まさに、豊富なエネルギー・金属、食料資源、太平洋・大西洋双方に面する地理的優位性、南米でブラジルに次ぐ4700万人の人口を有する消費市場、真面目で真摯な国民性といった、コロンビアのもつ本来の強みが発揮されようとしている。これを裏づけるかのように、昨今、日本企業が在コロンビアの人員を増強したり、新規に進出するケースが増えており、わが国経済界としても関心を高めている。

2013年11月18日、私が委員長を務める日本コロンビア経済委員会では、コロンビアのボゴタで第8回コロンビア経済合同委員会を開催、日本側から約50名、コロンビア側からはカウンターパートであるルイス・ムニョスFNC（コロンビアコーヒー生産者連合会）会長ら約70名が参加し、「両国経済情勢の展望」「多国間および二国間の経済協力フレームワーク」「ビジネス機会と課題」をテーマに議論を行い、相互理解と信頼の醸成に努めた。

私どもは、コロンビア経済界との連携のもと、

両国間の貿易・投資促進に寄与する日本コロンビアEPAの早期締結に向けて両国政府へ積極的に働きかけている。今後も要人来日などの機会をとらえ、働きかけていく所存である。

皆さまが本所感をお読みになるころには、大統領選挙の結果が判明していることと思う。前述の経済合同委員会で登壇したカルデナス財務大臣からは、結果にかかわらず「長期的な国の発展に向けたビジョンは不変である」との力強いコメントがあった。8月7日に発足する新体制が長期的ビジョンのもと、コロンビアをさらに発展させ、わが国との関係をこれまで以上に深めることを期待する。

ところで、三菱商事は、1959年にボゴタに拠点を設置して以降、治安悪化により日本企業のオフィス閉鎖や人員引き揚げが相次ぐ時代もあったが、約50年間にわたり拠点を維持、邦人派遣社員を送り続け、各事業を継続してきた。

なかでもコロンビア最大の輸出業者であり、55万世帯ものコーヒー生産農家を束ねるFNCから35年以上にわたり「エメラルドマウンテン」に代表される高品質コーヒー豆を輸入しており、コロンビアと連携し本邦のコーヒー文化の発展に注力してきた。

こうした長年の信頼に基づいた貴重な人脈を通じて、資源やエネルギー、インフラ、内需といった分野でのビジネスに注力し、日本コロンビア経済関係を強化するとともに、コロンビアのさらなる発展につなげていきたいと考えている。読者の皆さまのご理解・ご協力をお願いしたい。